

**製品名: Bub1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab07694**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:20000

分子量

**抗原情報**

遺伝子名	BUB1
別名	BUB1; BUB1L; Mitotic checkpoint serine/threonine-protein kinase BUB1; hBUB1; BUB1A
遺伝子 ID	699.0
SwissProt ID	O43683
免疫原	抗血清はヒト BUB1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 251-300

**背景**

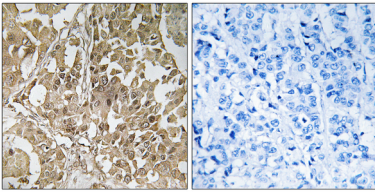
この遺伝子は、有糸分裂において中心的な役割を果たすセリン/スレオニンタンパク質キナーゼをコードしています。コードされているタンパク質は、有糸分裂チェックポイント複合体のメンバーをリン酸化して紡錘体チェックポイントを活性化することで部分的

に機能します。また、このタンパク質は、後期促進複合体 / サイクロソームの活性化を阻害する役割も担っています。このタンパク質は、DNA 損傷応答においても機能する可能性があります。この遺伝子の変異は、異数性およびいくつかの種類の癌と関連付けられています。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2013 年 7 月]、触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。、疾患: BUB1 の欠陥は腫瘍形成と関連しています。、ドメイン: CD1 ドメインは、キネトコアの局在と BUB3 への結合を指示します。、酵素制御: 細胞が有糸分裂に入ると自己リン酸化されます。、機能: 細胞周期チェックポイントの実施に関与します。BUB3 と相互作用し、リン酸化することができます。、誘導: ホルボール 12-ミリスタート 13-アセテート (PMA) によって阻害されます。、PTM: DNA 損傷時に、おそらく ATM または ATR によってリン酸化されます。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。BUB1 サブファミリー。、類似性: 1 つの CD1 ドメインを含みます。、類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。、細胞内局在: 間期細胞では核内。動原体の局在は、正常な有糸分裂のタイミングと紡錘体損傷に対するチェックポイント応答に必要です。、組織特異性: 精巣と胸腺で高く発現し、結腸、脾臓、肺、小腸では低く発現は有糸分裂指数の高い細胞/組織と関連している。

## 研究分野

Cell\_Cycle\_G1S;Cell\_Cycle\_G2M\_DNA;卵母細胞減数分裂;プロゲステロンによる卵母細胞成熟;

## 画像データ



BUB1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。